



— 2026年6月期 決算説明資料

ICTの活用で「持続可能な医療」を目指す
SUStainable **MED**icine

- 自社内で構築してきたデジタル医療プラットフォームを活用した「治療用アプリ開発」「臨床試験支援」を軸に、新たな領域への展開を計画

《治療用アプリ開発：単独／共同》

アプリ開発

臨床試験（探索的・検証的）

承認申請

市販後・RWD

デジタル医療プラットフォーム

① QDTx®
(治療用アプリ開発プラットフォーム)



② SUSMED SourceDataSync®
(臨床試験システム)

試験データ入力・管理システム



医療機関



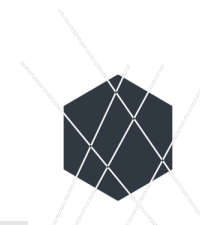
製薬企業・CRO*

* CRO : 医薬品開発業務受託機関

ブロックチェーン



③ Awesome Intelligence®
(医療ビッグデータ分析)

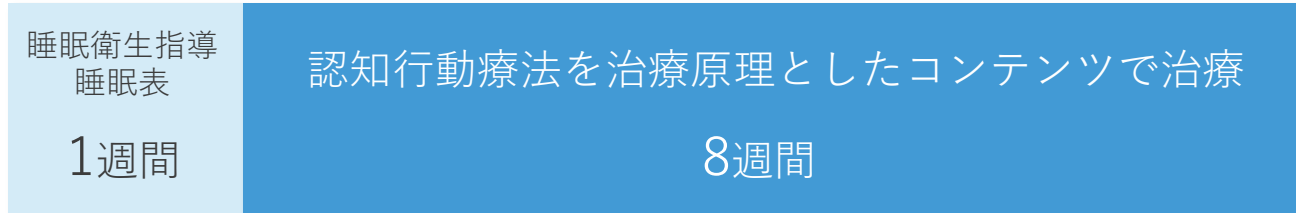


《臨床試験支援：DTx／医薬品》

《新たな事業領域》

例) レジストリ

- 患者のスマートフォンで不眠障害に対する認知行動療法を治療原理とするコンテンツを実施できる日本初の不眠障害用アプリ
- チャット形式でのプログラムによる介入を採用し、医療従事者との面談に近い不眠障害治療の実践が期待できる



朝の振り返り

- ・ 睡眠時間入力
(就寝、入眠、覚醒、起床時間、中途覚醒回数)
- ・ 仮眠時間入力
- ・ 睡眠衛生指導
- ・ 刺激制御療法

※1 就寝から起床までの時間を調整する
※2 心配事や考え事を可視化する
※3 不眠の度合いをAISによって測定する

夕の振り返り

- ・ 睡眠時間制限療法※1
- ・ 刺激制御療法
- ・ 認知療法※2
- ・ 眠気検査
- ・ 不眠尺度評価※3

保険償還価格

24,100円／処方

下記の対象患者に対して保険算定
別途技術料（プログラム医療機器等指導管理料）も算定

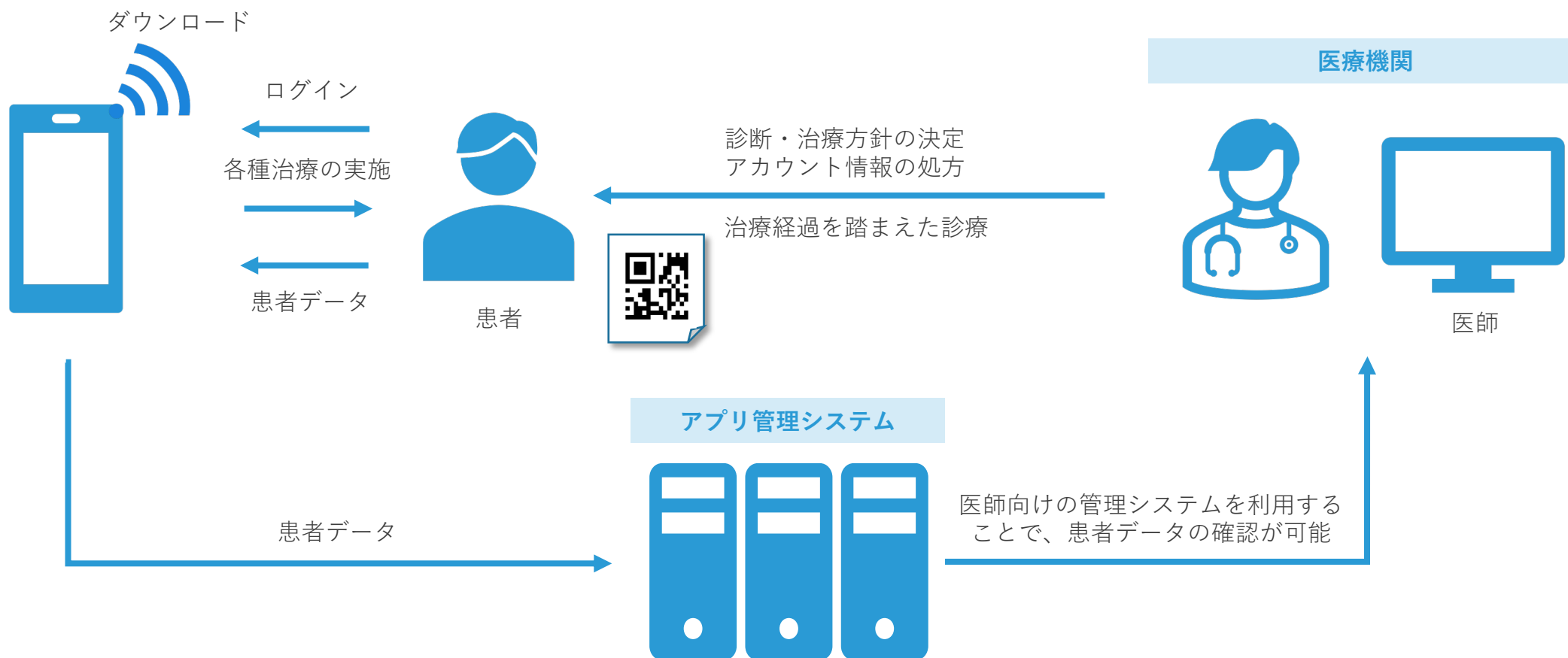
対象患者※4

- ・ 入院中でないこと
- ・ 薬物療法に適しない又は同意しない患者で、不眠症状が軽症から中等症であること

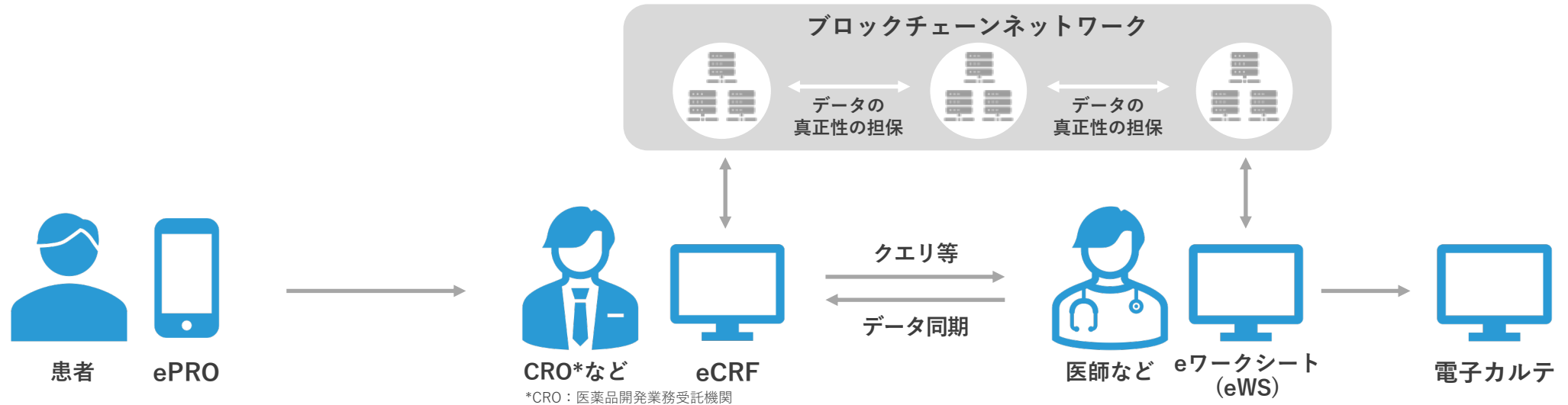
※4 睡眠障害治療薬を服用、精神疾患に罹患、交代勤務・夜勤に従事、医師が不適当と判断した患者は対象外

— 治療用アプリの提供の流れ

- 治療用アプリは、医師の診断・処方に基づき、患者のスマートフォンにダウンロードされる
- 医療機関で処方されるアカウント情報を使用してアプリにログイン
(Google PlayやApp Storeからダウンロードは可能だが、アカウント情報がないとログインできない)
- ログイン後に実際の治療行為をアプリ単独で実施 (医師の介在は不要)
- 患者が入力したデータは医師向けの管理システムと連携し、医師はPC等で患者のデータを確認可能



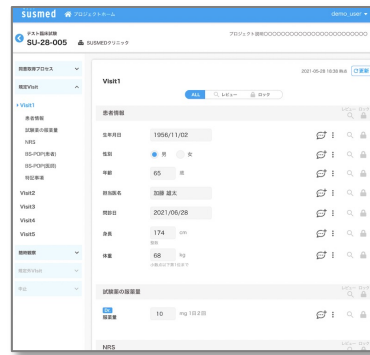
- ブロックチェーン技術の実装により、データの真正性の担保と臨床試験のモニタリングに関する工数と費用を大幅に削減
- リモートでの臨床試験実施も可能とし、多額の開発コストに起因するドラッグ・ラグ、ドラッグ・ロス の解消を目指す



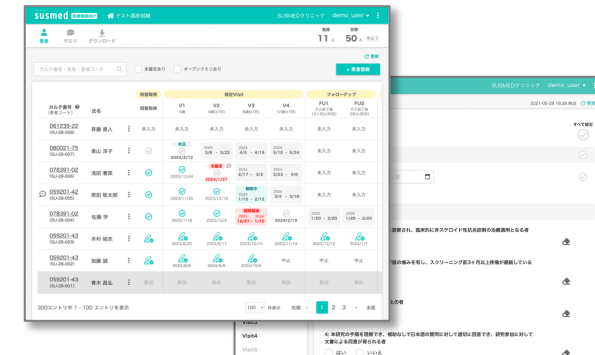
SUSMED SDS : ePRO・eCRF・eWSを一元的に提供



ePRO: 患者のデータを取得するシステム



eCRF: 電子化された症例報告書

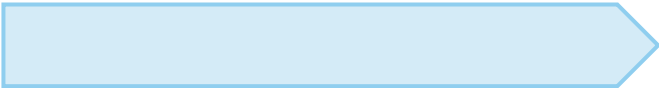
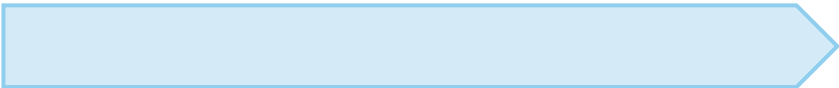
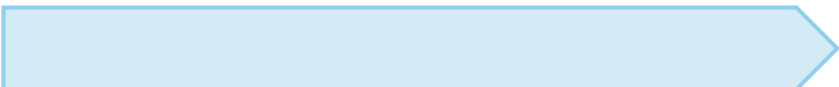
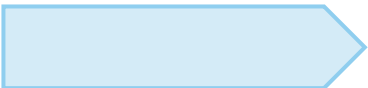
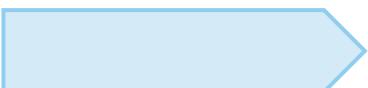


eWS: 電子化された記録用紙

- 治療用アプリ開発のプラットフォームを活用し、複数のパイプラインを組成
- 「サスメド 不眠障害用アプリ Medcle」は、2026年6月より保険収載され販売を開始
- アルゴリズム構築と治療用アプリの普及で重要となるアカデミアのKOLとの関係性構築で多数の実績

	対象疾患	研究・アプリ開発	探索的試験	検証的試験	現状
治療	SMD401 (乳がん運動療法)				次試験に向けて準備中
	SMD402 (ACP* *: Advance Care Planning)				企業治験進行中
	SMD201 (慢性腎臓病)				次試験に向けて準備中
	SMD102 (遷延性悲嘆障害)				アプリ開発中 論文公開
	SMD202 (オピオイド誘発性便秘症)				探索的試験の開始に向けて アプリ開発中
	SMD403 (耳鳴)				検証的試験を開始

- 治療用アプリ開発のプラットフォームを活用し、複数のパイプラインを組成
- 「サスメド 不眠障害用アプリ Medcle」は、2026年6月より保険収載され販売を開始
- アルゴリズム構築と治療用アプリの普及で重要となるアカデミアのKOLとの関係性構築で多数の実績

	対象疾患	研究・アプリ開発	探索的試験	検証的試験	現状
治療	SMD105 (乳がん切除後疼痛症候群)				探索的試験実施中
	SMD106 (月経前症候群・月経前不快気分障害)				次試験に向けて準備中
	SMD107 (持続性知覚性姿勢誘発めまい)				臨床研究終了 研究結果を学会で発表
診断	SMD103 (妊産婦うつ)				アプリ開発中 論文公開
	SMD104 (ADHD：視線解析)				アプリ開発中 AMED事業に採択

1 不眠障害治療用アプリの販売開始

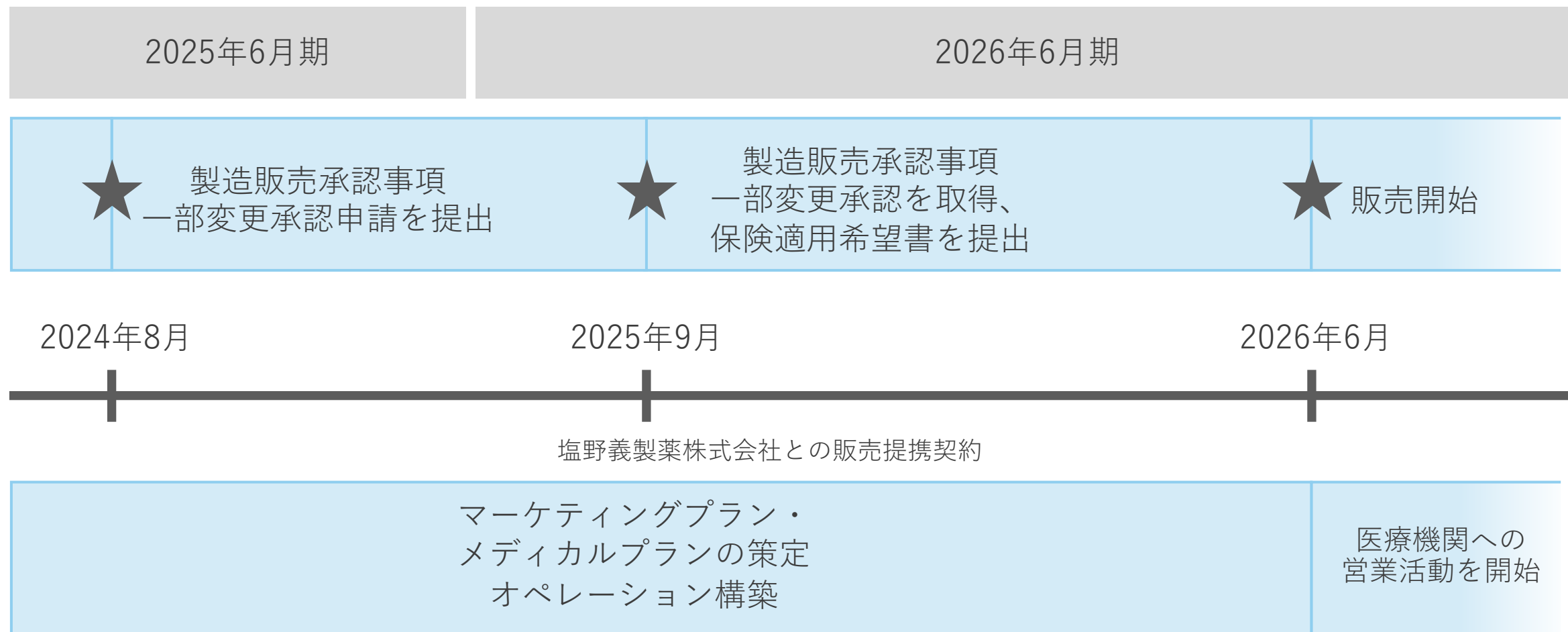
2 パイプラインの開発進捗

- ・ SMD201：次試験の開始
- ・ SMD105：次試験の開始
- ・ SMD403：特定臨床研究結果の公表
- ・ SMD106：特定臨床研究の完了

3 臨床試験システムの稼働実績積み上げ

重点施策① 不眠障害治療用アプリの販売開始

- 2026年5月に保険収載が了承され、2026年6月より販売を開始
- 「サスメド 不眠障害用アプリ Medcle」の開発進捗に応じたマイルストーンを達成。詳細については協議中
- 販売面については、塩野義製薬株式会社と医療機関への営業活動を開始



- SMD403（耳鳴）において、マイルストーンを達成

杏林製薬株式会社との耳鳴治療用アプリ開発



< 共同研究開発の現状 >

- 検証的試験においてアプリが利用開始され、マイルストーンを達成
- マイルストーン収益として2.4億円を受領（第4四半期に収益計上）

- 虚血性心疾患または拡張型心筋症による重症心不全を対象とした治験において、初の患者様への投与に成功

心筋再生医療(カテーテル投与)の第I/II相企業治験



<ブロックチェーン技術の活用により期待される効果>

- 医療機関におけるデータ入力及びデータ照合作業に関わる工程の大幅な削減
- モニターの医療機関への訪問回数や作業時間の低減
- 治験データの信頼性向上

- SMD403（耳鳴）において、ブロックチェーン技術を実装した臨床試験システムが稼働開始

杏林製薬株式会社との耳鳴治療用アプリ開発



< 共同研究開発の現状 >

- 検証的試験において、臨床試験システム「SUSMED SDS」が稼働開始
- 2023年9月の特定臨床研究に続き、本試験においても利用

1

不眠障害治療用アプリの販売開始

2026年6月より保険収載され販売開始

2

パイプラインの開発進捗

- ・ SMD201 : SMD201は次試験に向けて準備を継続
- ・ SMD105 : SMD105で探索的試験を実施中
- ・ SMD403 : SMD403で検証的試験を開始し、マイルストーンを達成
- ・ SMD106 : SMD106は次の開発段階に進むことで合意

3

臨床試験システムの稼働実績積み上げ

Heartseed社の企業治験で順調に稼働中
杏林製薬の検証的試験において稼働開始

- 1 医療関係者向けサイト及び
不眠症に関する疾患啓発サイト「眠りの道しるべ」を開設
- 2 持続性知覚性姿勢誘発めまいの臨床研究結果を学会で発表
- 3 資本金を10百万円に減少（減資）

- 事業収益はマイルストーン収益の貢献やDTxプラットフォームが堅調に推移したことにより、2026年6月期は497百万円を計上
- 採用活動の強化に伴う人件費の増加や、Medcleの販売開始に伴うプロモーション費用が発生し、営業損失は330百万円で着地
- 研究開発費は一部の資産化に伴い前年比で減少

	(参考) 2025年6月期実績	2026年6月期 実績	2026年6月期 通期予算	達成率
事業収益	462百万円	497百万円	--百万円	--%
営業利益	△299百万円	△330百万円	--百万円	--%
開発パイプライン件数 (2026年8月7日現在)	12件	11件※	--件	--件
契約案件数	16件	15件	--件	--件
研究開発費	273百万円	247百万円	--百万円	--%

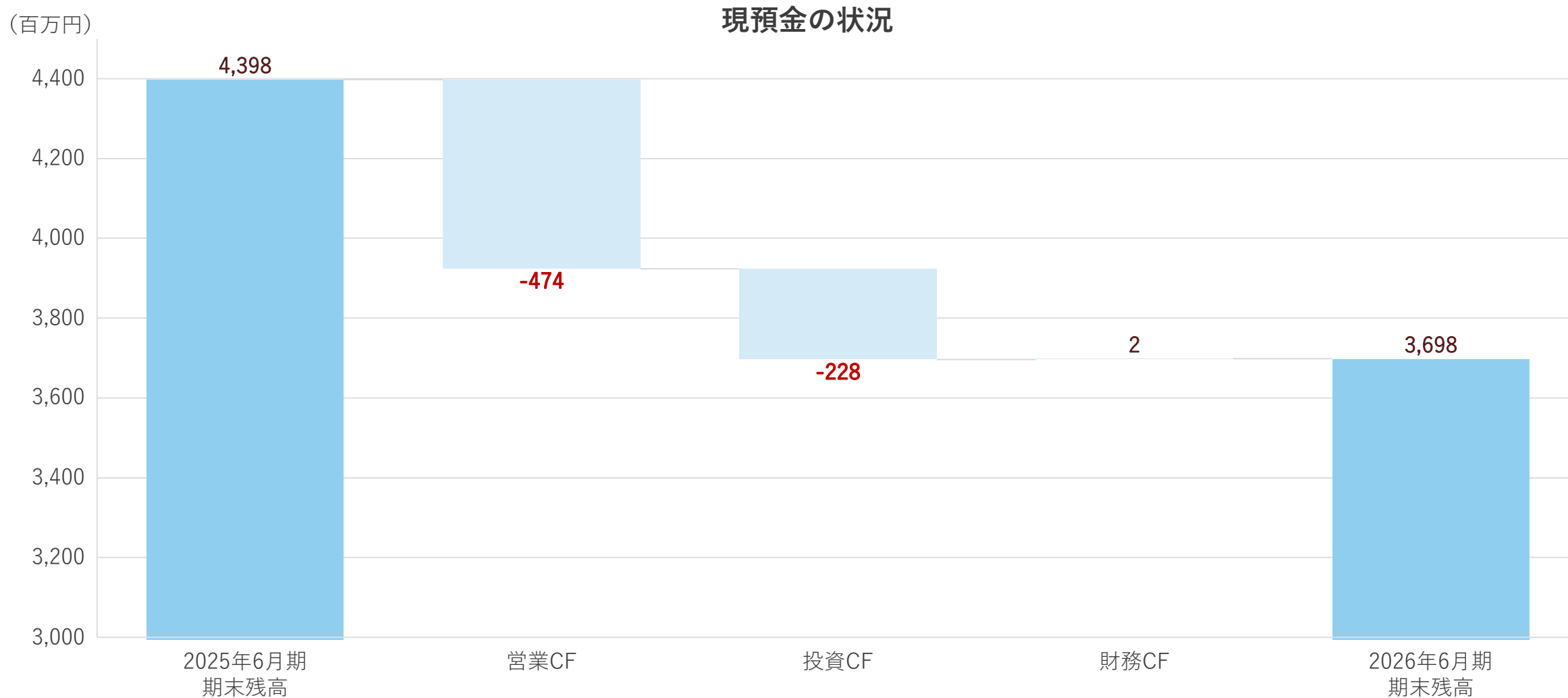
※ 2026年6月から「不眠障害用アプリ Medcle」の販売を開始したことに伴い、開発パイプラインから除外しております

- DTxプロダクト事業の収益は、製薬企業との共同開発案件でのマイルストーン収益を中心に3.4億円を計上
- Medcleの販売開始に伴うプロモーション費用が発生し、セグメント利益は103百万円で着地
- DTxプラットフォーム事業の収益は、第3四半期累計と比較して堅調に推移
- サスメドシステムの追加開発の完了に伴い、前期比で利益率は向上したものの、利益額は横ばい

	(参考) 2025年6月期	2026年6月期 第3四半期累計	2026年6月期 通期累計
DTxプロダクト事業			
事業収益	300 _{百万円}	100 _{百万円}	340 _{百万円}
セグメント利益	118 _{百万円}	△56 _{百万円}	103 _{百万円}
DTxプラットフォーム事業			
事業収益	162 _{百万円}	130 _{百万円}	156 _{百万円}
セグメント利益	33 _{百万円}	76 _{百万円}	76 _{百万円}

■引き続き、強固な財務基盤を維持

■投資CFは、オフィス移転に伴う工事費用や敷金及びソフトウェアの構築により一時的に支出が増加



— 2027年6月期の業績予想

— 2027年6月期業績予想

- Medcleの販売、パイプラインにおけるマイルストーン収入、プラットフォーム事業の堅調な推移により収益の拡大を見込む
- オフィス移転費用、採用継続による人件費の増加等により、今期も赤字継続
- 複数の臨床試験の開始により研究開発費も増加する予定
- 6月より販売を開始したMedcleは、採用医療機関数の拡大は想定の範囲内で進行している一方で、処方数の増加が課題

	2026年6月期 通期予算	2026年6月期 実績	2027年6月期 通期予算
事業収益	--百万円	497百万円	838百万円
営業利益	--百万円	△330百万円	△461百万円
Medcle 採用医療機関数	--軒	--軒	1,000軒
Medcle 月間処方数	--回/月	--回/月	2,000回/月
開発パイプライン件数	--件	11件	11件
契約案件数	--件	15件	17件
研究開発費	--百万円	247百万円	435百万円

1 不眠障害治療用アプリの販売推進

2 パイプラインの開発進捗

- ・ SMD105：次試験の開始
- ・ SMD403：検証的試験の完了
- ・ SMD106：検証的試験の開始
- ・ SMD107：次試験の開始

3 臨床試験システムの稼働実績積み上げ

— Appendix

- 治療用アプリの開発経験から、新規アプリのPoC*取得を迅速に実施可能なプラットフォームを構築（特許技術実装）
- 医療機関用システムと患者用アプリを設定ファイルでカスタマイズするだけで臨床試験が実施可能
- スクラッチで開発する必要がなく、開発リソースを節約しながら複数パイプラインを並列で推進できる

*PoC: Proof of Concept



- 機械学習の予測モデルを自動で構築できるクラウドサービスを構築し、臨床試験データの解析などに活用
- ファイルアップロード → 予測したい変数を選択 → 分析実行の操作のみで、自動で予測モデル構築とレポートが出力

1. データをツールに投入 (csvファイル)

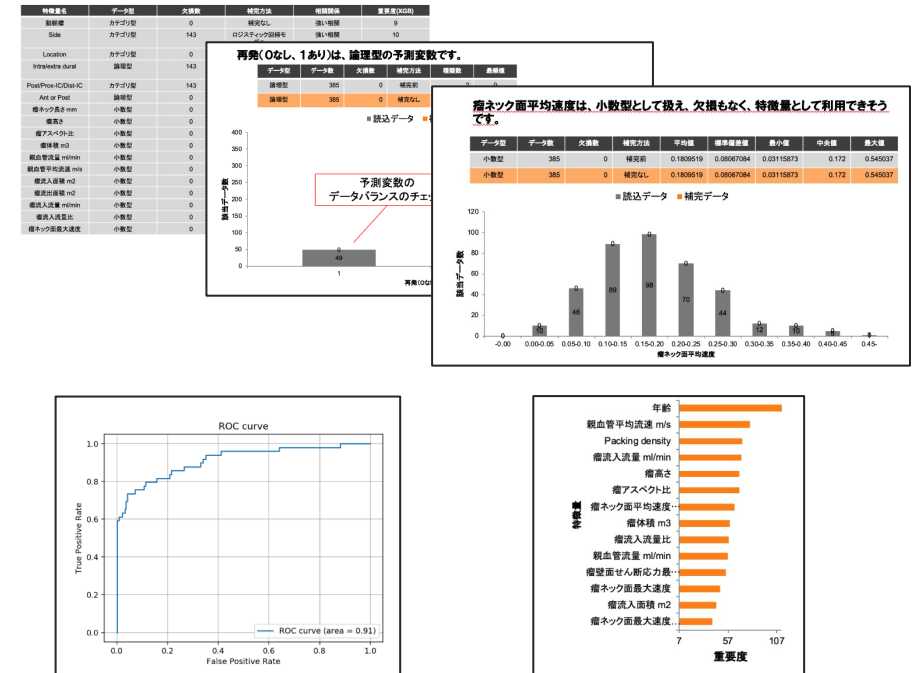
ファイルアップロード → 予測したい変数を選択 → 分析実行の操作のみで、自動で予測モデル構築とレポートが出力

1. ファイルをアップロード

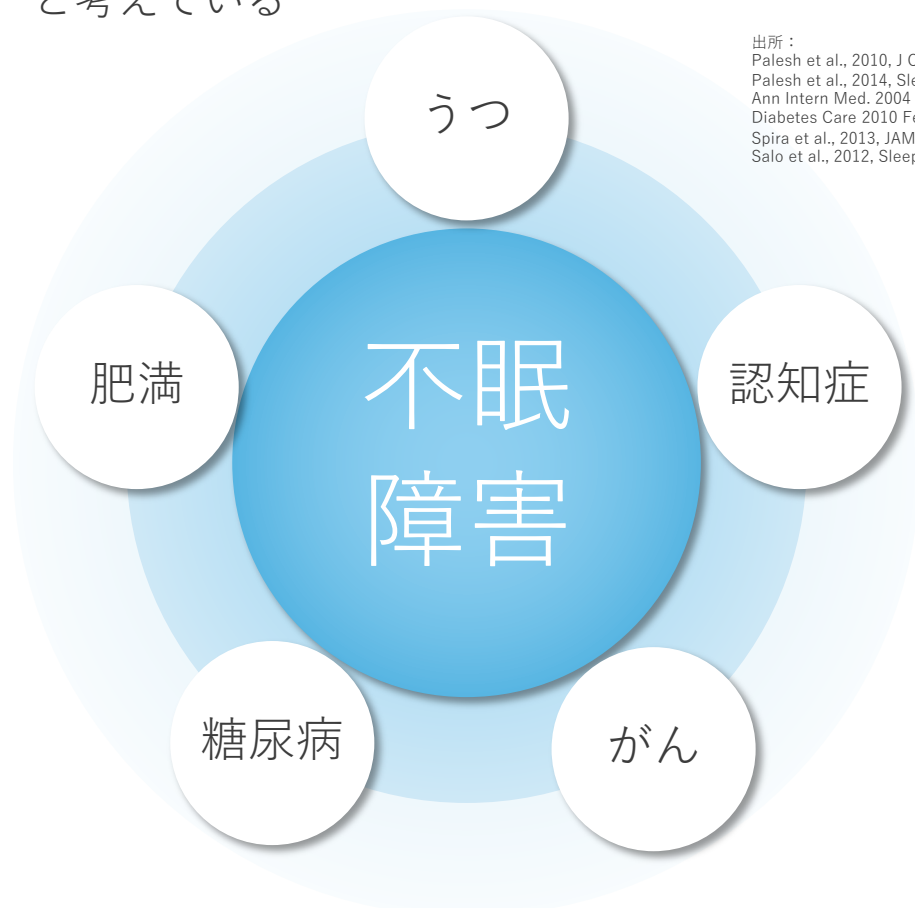
2. 列名から予測変数を選択

3. 分析実行

2. アウトプットがPPT形式で自動で出力



- 複数の疾患のリスク要因である不眠障害に対して、睡眠薬の投与による治療が日本国内では支配的であると理解
- 睡眠薬による治療は問題が多く、減薬や処方期間の短縮が打ち出されているところ、近年は認知行動療法が注目されていると考えている

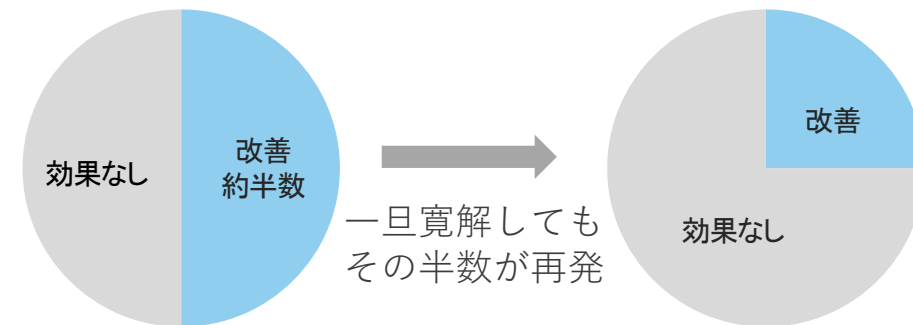


不眠障害は複数疾患のリスク要因

出所：
Palesh et al., 2010, J Clin Oncol
Palesh et al., 2014, Sleep
Ann Intern Med. 2004 Dec 7;141(11):846-50.
Diabetes Care 2010 Feb; 33(2): 414-420.
Spira et al., 2013, JAMA Neurol
Salo et al., 2012, Sleep Medicine



効能



出所：睡眠薬の適正な使用と休薬のための診療ガイドライン（厚生労働科学研究・障害者対策総合研究事業）

副作用

- 依存性
- 処方への抵抗感



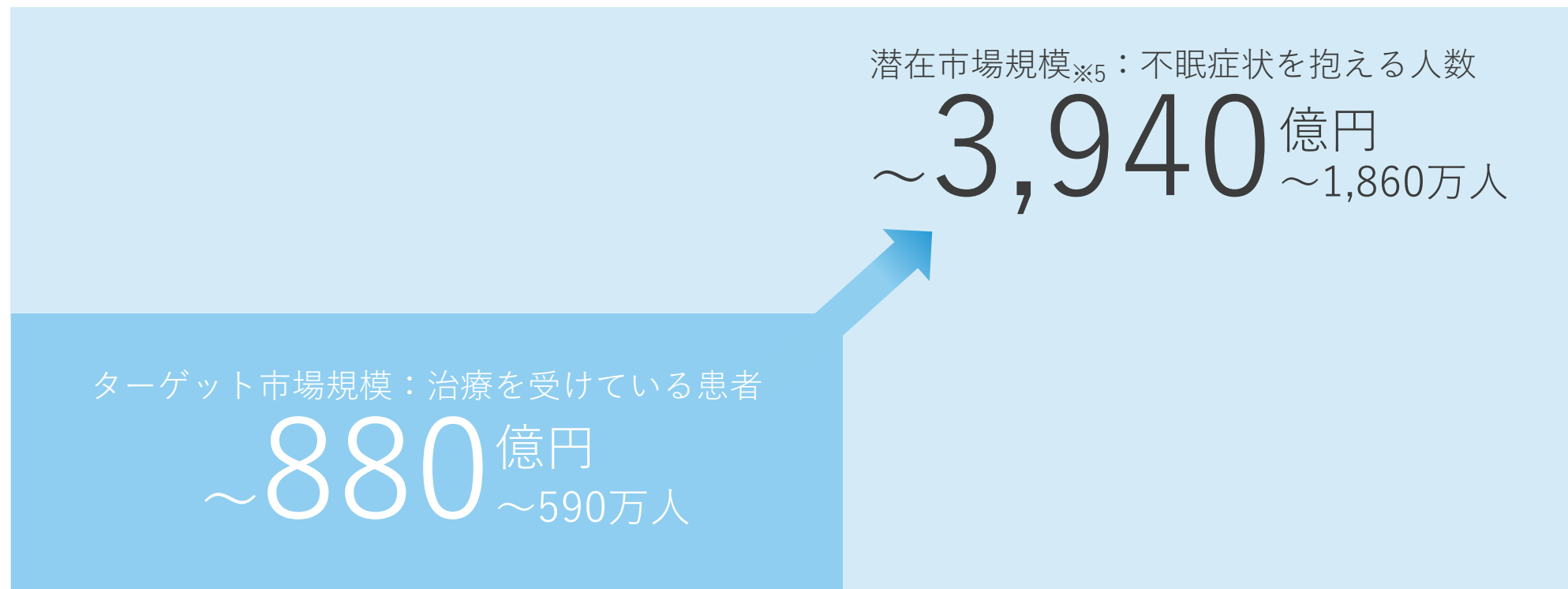
アクセス

- アメリカでは治療の第一選択
- 日本国内ではCBT-Iを実施できるスタッフが不足

*CBT-I: 睡眠障害を対象とした認知行動療法（Cognitive Behavioral Therapy for Insomnia）

— 不眠障害治療用アプリの国内市場規模（推計）

■ ターゲット市場は880億円、潜在患者まで含めると3,940億円の規模を見込む



	患者数※1、※2	×	保険償還価格	×	単剤率※3	×	軽度～中等度患者比率※4
潜在市場	1,860万人				-		100%
ターゲット市場	590万人		24,100円		72.7%		85%

※1：日本の人口約1.25億人×日中の過度な眠気に悩んでいる人の割合14.9%=1,860万人（Liu X et al. Psychiatry Research, 93・1, 1-11 (2000)）

※2：日本の人口約1.25億人×治療層4.7% ≒ 590万人（「不眠に関する意識と実態調査」MSD製薬 2014年）

※3：20～74歳の一般人口における向精神薬が3ヶ月間に処方された人数のうち、1種類の睡眠薬を処方された人数の割合（出所：睡眠薬厚生労働省「抗不安薬・睡眠薬の処方実態についての報告」）

※4：2025年のアテネ不眠尺度の質問を基に調査した結果（N=10,000）で、不眠症の可能性のある人の割合（48.1%）に占める軽度もしくは中等度不眠症の可能性のある人の割合（40.9%）（出所：西川株式会社「nishikawa睡眠白書 2025」）。未治療の患者（1,270万人）については、重症患者は既に治療を受けていると仮定し、患者比率（軽度～中等度）は100%とする

※5：不眠症を抱えているが未治療の患者数1,270万人（1,860万人-590万人）に保険償還価格を乗じ、ターゲット市場規模を加算して算出（1,270万人×24,100円+880億円≒3,940億円）

注：市場規模（推計）は当社アプリがターゲットとする市場全体の規模を表しており、医療機関や販売提携先に帰属する収益等も含まれています。

— 不眠障害治療用アプリのSAM (Serviceable Available Market)

- 既存の睡眠薬治療からの切替ニーズと、不眠症自覚症状があるが睡眠薬治療に抵抗がある未治療患者の掘り起こしを狙う
- 当社実施の387名の医師を対象としたアンケートより、SAMは420億円超と試算される

既存治療患者からの切替

未治療患者の掘り起こし

SAM



既存不眠障害
治療患者数※1

患者比率
(軽度～中等度)

単剤率

推定処方率※2
(当社試算)

保険償還価格※3

590万人 × 85% × 72.7% × 17% × 24,100円

潜在患者※4

患者比率
(軽度～中等度)

推定処方率※5
(当社試算)

保険償還価格※3

470万人 × 100% × 24% × 24,100円

(参考) 既存不眠症治療薬の2025年売上高(億円)※6

デエビゴ	592
ベルソムラ	218
マイスリー	25

※1：日本の人口約1.25億人×治療層4.7% ≒ 590万人（「不眠に関する意識と実態調査」MSD製薬 2014年）

※2：当社実施の医師アンケート（N=387）より、CBT-Iアプリを支持している医師の割合×CBT-Iアプリの想定処方割合×年代層別のスマートフォン保有率（出所：インテージ「マルチデバイス調査」）に不眠症治療薬を服用している人のうち現在の治療薬に対して不満がある人の割合71%（「不眠に関する意識と実態調査」MSD製薬 2014年）を乗じて試算

※3：不眠症治療用アプリの償還価格

※4：不眠症状を抱えており未治療1,270万人（1,860万人-590万人）に、不眠症疑いあり層のうち「自分は不眠症だと思う」（35.2%）もしくは「どちらともいえない」（21.9%）の合計57.1%を乗じ、さらに不眠症疑いあり層で不眠症治療薬を飲むことは怖いと感じている割合64.4%を乗じて試算（「不眠に関する意識と実態調査」MSD製薬 2014年）

※5：当社実施の医師アンケート（N=387）より、CBT-Iアプリを支持している医師の割合×CBT-Iアプリの想定処方割合×スマートフォン保有率（出所：インテージ「マルチデバイス調査」）より試算

※6：薬事ハンドブック2026、薬価ベース

- 英国国立医療技術評価機構（NICE）が、不眠症治療において睡眠薬の代わりに治療用アプリを推奨

NICE National Institute for Health and Care Excellence

Search NICE...

Sign in

Guidance

Standards and indicators

Clinical Knowledge Summaries (CKS)

British National Formulary (BNF)

British National Formulary for Children (BNFC)

Life sciences

More from NICE

[Home](#) > [News](#) > [News articles](#)

App-based treatment for people with insomnia an effective alternative to sleeping pills

Hundreds of thousands of people suffering from insomnia who would usually be prescribed sleeping pills could be offered an app-based treatment programme instead.

News 20 May 2022



Associated guidance and resources
[Guidance on Sleepio to treat insomnia and insomnia symptoms](#)

NICE has recommended [Sleepio](#) as an effective alternative to sleeping pills, which would save the NHS money as well as reducing prescriptions of medicines such as zolpidem and zopiclone that [can be dependency forming](#). Economic analysis found that healthcare costs were lower at one year when using Sleepio, mostly because of fewer GP appointments and sleeping pills prescribed.

<https://www.nice.org.uk/news/articles/App-based-treatment-for-people-with-insomnia-an-effective-alternative-to-sleeping-pills>

- ヨーロッパ睡眠学会が不眠障害治療のガイドラインを改定し、「成人に対する慢性的な不眠障害の治療においては、対面、デジタルのいずれかに関わらず認知行動療法が第一選択として推奨される」とした論文を発表

”Cognitive-behavioural therapy for insomnia is recommended as the first-line treatment for chronic insomnia in adults of any age (including patients with comorbidities), either applied in-person or digitally”

”When cognitive-behavioural therapy for insomnia is not sufficiently effective, a pharmacological intervention can be offered.”



REVIEW ARTICLE | Open Access |

The European Insomnia Guideline: An update on the diagnosis and treatment of insomnia 2023

Dieter Riemann , Colin A. Espie, Ellemarije Altena, Erna Sif Arnardottir, Chiara Baglioni, Claudio L. A. Bassetti, Celyne Bastien, Natalija Berzina, Bjørn Bjorvatn ... [See all authors](#)

First published: 28 November 2023 | <https://doi.org/10.1111/jsr.14035> | Citations: 1

<https://doi.org/10.1111/jsr.14035>

— 主なパイプラインの国内市場規模（推計）

乳がん患者運動療法

ACP : Advance Care Planning

腎臓リハビリ

市場規模

72億円

309億円

660億円

保険償還点数

- ▶ 615点/回
 - 1時間運動療法を行った場合
 - 1単位：205点/20分
 - H007-2 がん患者リハビリテーション料を参照

- ▶ 3,000台湾ドル/時間 (13,500円: 1TWD=4.5JPY)
 - 日本ではACPの保険償還点数が決まっていないため、台湾の事例を参照*

- ▶ 555点/回
 - 1時間運動療法を行った場合
 - 1単位：185点/20分
 - H002 運動器リハビリテーション料 (I) を参照

回数

- ▶ 3回/週 (※1)

- ▶ 6ヶ月間：1時間/回/月 (※2)

- ▶ 8回/月 (※3)
 - 2回/週

対象人数

- ▶ 97,812人**
 - 2019年の乳がん罹患者数

- ▶ 381,505人**
 - 2021年のがんによる死亡者数

- ▶ 149万人***
 - 20歳以上の慢性腎臓病G3b-G4ステージの患者数

* : “Taiwanese put off by costly advance care planning services: Experts”, Mar. 6, 2023 (記載されているレンジNT\$2000-NT\$4000の中間値を使用)

** : https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html#a25

*** : CKD診療ガイド2012

※1: 臨床試験における治療プログラムを参照 (<https://tokuteikenshin-hokensidou.jp/news/2019/007960.php>)

※2: 当社推計

※3: 腎臓リハビリテーションガイドラインを参照

注： 市場規模（推計）は当社アプリがターゲットとする市場全体の規模を表しており、医療機関や販売提携先に帰属する収益等も含まれています。

会社概要

会社名	サスメド株式会社
代表者	代表取締役社長 上野太郎
設立年月	2016年2月 (2015年7月に合同会社として創業)
本社	東京都中央区日本橋本町三丁目7番2号
従業員数	51名 (2026年8月時点)
事業内容	「DTx開発」「医薬品開発の効率化を推進するSUSMED SourceDataSync®の提供」を展開
主要株主	経営陣 日本カストディ銀行 ヘルシア スズケン 第一生命保険 等

At a glance (2026年8月現在)

2026年6月より
不眠障害用アプリ「Medcle」の販売を開始

特許取得数

32件

海外特許・共同出願含む

DTx開発
パイプライン数

11件

プロジェクト採択数
(累計)

21件

AMED* / 厚生労働省 / NEDO** /
文部科学省 / 内閣府 / JST***

共同研究数 (累計)

24社・機関

*AMED: 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

**NEDO: 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

***JST: 国立研究開発法人科学技術振興機構



代表取締役社長 上野 太郎

医師、医学博士

睡眠医療・神経科学分野を中心とした科学業績を多数有し、臨床医として専門外来診療も継続。国立がん研究センター等との共同研究を主導。日本睡眠学会の評議員も務める

東北大学医学部卒(H18年)

受賞歴: 井上研究奨励賞、武田科学振興財団医学系研究奨励、内藤記念科学奨励金・研究助成、肥後医育振興会医学研究奨励賞等
経済産業省ヘルスケアIT研究会専門委員



取締役(管理) 小原 隆幸

船井総合研究所に入社し、プライベートエクイティファンドのビジネスDD業務に従事。その後、大和PIパートナーズ、大和企業投資において、国内外の投資業務に携わる。その後、コスメネクスト社において、経営管理／経営企画の担当役員として、管理体制の整備、旗艦店(@cosme TOKYO)の開発を手掛け、2020年より現職

MBA (London Business School)、USCPA (Inactive)



取締役CTO(システム開発) 本橋 智光

Slerの研究者、Web系企業の分析者を経て現職

基盤・スマホアプリ・フロント・サーバ・機械学習・数理最適化等幅広くこなす

個人として量子アニーリングコンピュータの応用研究にも従事しIPA 未踏ターゲットにも関わる

受賞歴: システム制御情報学会奨励賞、KDD Cup2015 2nd

著書に「前処理大全」(技術評論社)、「機械学習のための特徴量エンジニアリング」(O'Reilly Japan)など。日本情報システムユーザー協会や日経セミナーなどで講演多数

本資料には、当社の現在の見通し、予想、目標、計画などを含む将来に関する記述が含まれています。これらの記述について、当社は、将来に関する見通しであることを示すために、全てではありませんが、多くの場合、「予想」、「目標」、「想定」、「期待」、「意図」、「計画」、「見込み」等の語句およびこれと同様の意味を有する語句を用いています。将来に関する見通しは、本資料の作成時点における入手可能な業界、市場動向または経済情勢等の情報に基づき一定の前提・仮定のもとに作成されたもので、既知または未知のリスク、不確実性が内在しており、今後発生する事象に基づき影響を受ける可能性があります。影響を与える要因としては、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった国内外の経済情勢、当社の関連する業界における事業環境の変化および関係法規制の改正、開発計画・製品化の遅延や今後の販売活動において期待した効果が得られない可能性、第三者による知的財産の侵害等が含まれますが、これらに限られるものではありません。そのため、当社の実際の業績は将来に関する見通しに記載されまたは示唆されるものとは大幅に異なる可能性があります。当社は、これらの将来に関する見通しに記載される予想が正確なものであることを保証するものではありません。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行なっており、またこれを保証するものではありません。

当社は、本資料の日付以降において、本資料に記載された内容を随時更新する義務を負うものではなく、かかる方針も有しておりません。また、これらの情報は、今後予告なく変更されることがあります。従いまして、本資料及び本資料に記載の情報の利用については、他の方法により入手した情報とも照合確認し、利用者のご判断によって行なってくださいますようお願い致します。

本資料は当社事業への理解を深めていただくために作成したものであり、医薬品及び医療機器（開発中の製品を含む）に関する宣伝広告、医学的アドバイスを目的とはしておらず、また、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券の勧誘を構成するものではありません。

本資料の利用は、利用者の責任によるものとし、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。